## 漢文の訓読

漢文を日本語の規則に従って読むことを**訓読**という。漢字だけで書かれた原文を**白文**といい、これに**訓点**という訓読のための文字や記号を加えたものを**訓読文**という。訓点には、**送り仮名・返り点・句読点**がある。

〈白文〉春眠不覚暁 → 〈訓読文〉春眠不レ覚レエ暁ヲ

●主な返り点

・**レ点**……下から上に一字返って読むことを表す。

（例）②レ① 不レ覚レエ暁ヲ

・**一・二点**…下から上に二字以上返って読むことを表す。

（例）③二①②一 送三ル孟浩然ノ之二クヲ広陵一ニ

訓読文を、漢字仮名交じり文に書き改めたものを**書き下し文**という。

〈訓読文〉春眠不レ(ず)覚レエ暁ヲ → 〈書き下し文〉春眠暁を覚えず

訓読文を書き下し文に直すときは、次のような決まりがある。

・送り仮名はひらがなに改める。
・返り点が示す順に従って書き改める。
・漢字は原則そのままだが、「之(の)」「不(ず)」などの助詞・助動詞はひらがなに改める。

---

**A**

春暁（シュンギョウ／しゅんげう）　孟浩然（モウコウネン／まうかうねん）

春眠不レ(ず)覚レエ暁ヲ
処処聞二ク啼鳥一ヲ
夜来風雨ノ声
花落ツルコト知ル多少

春眠(シュンミン／しゅんみん)暁(あかつき)を覚えず
春の眠りは（心地よく）夜が明けたことにも気づかない。
処処(ショショ／しょしょ)啼鳥(テイチョウ／ていてう)を聞く
（目覚めると）あちらこちらで鳴く鳥の声が聞こえる。
夜来(やらい)風雨の声
昨夜は風雨の音がしていたが、
花落つること知る多少
花はどれほど散ったことだろうか。

**孟浩然**

孟浩然は唐(とう)代の詩人。「春暁」は孟浩然が暮らしていた鹿門山(ろくもんさん)の春の朝を、起承転結の構成でうたっている。

・起句…歌い起こす
・承句…起句を承(う)けて展開する
・転句…場面が転換(てんかん)する
・結句…全体をまとめ結ぶ

## 確認テスト

詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) 返り点に従って、次の□に読む順に算用数字を書きなさい。

□ □レ □ □ □レ □

(2) 返り点に従って、次の□に読む順に算用数字を書きなさい。

□レ □ □二 □ □一

(3) 返り点に従って、次の□に読む順に算用数字を書きなさい。

□三 □ □二 □ □一

(4) 次の数字の順に従って□を読むように、返り点を書き入れなさい。

1 5 2 3 4

(5) 次の訓読文を書き下し文に直し、解答欄に当てはまる言葉を書き入れなさい。ただし「不」は助動詞に当たる言葉である。

渾（すベテ）欲（ス）レ不（ざラント）レ勝（たヘ）レ簪（しんニ）

渾べて簪に「　　」

(6) Aの漢詩の形式を選びなさい。

ア 五言絶句　イ 七言絶句

ウ 五言律詩　エ 七言律詩

「　　」

(7) Aで「暁」と同じ音の響き（ひび）をもつ句末の字**すべて**に○を付けなさい。

暁　鳥　声　少

(8) Aで場面が一転している句は第何句か。漢数字で答えなさい。

第□句